

「観光都市」沼津の現状と課題を踏まえた「沼津ならではの」の誘客施策

日本大学 国際関係学部 宍戸ゼミナール

指導教員：教授 宍戸 学

参加学生：3年 村松奈月、小岱楓、寺山隆太、上野山志音、安藤優花、辻知江、
富岡大暉、藤田基生、古木凜、望月宥伽、依田佳瑚、富樫愛日、柳田千春、
石澤愛理、稲葉果保、鈴木真叶、橋本龍徳、恩田悠佑、その他ゼミ生

1 要約

アニメ、ラブライブ！サンシャイン！！の舞台として知られる沼津市であるが、さらに観光地としての魅力を高めるには、新しい観光コンテンツの発掘とプロモーションが不可欠である。本研究では、課題に対して、3つの手法からアプローチを試みた。①宿泊施設プロモーション動画作成、②沼津駅周辺・沼津仲店商店街のイベントの企画と実施、③沼津市飲食店マップ作り、である。沼津市役所や地域の商店街、NPO、各施設と協働する学生達の活動によって、沼津市の新たな観光客誘致に貢献する取り組みである。

2 研究の目的

本研究では、宿泊ビジネス・旅行ビジネス・地域観光の3つの研究チームに分かれ、若者目線で沼津の観光魅力を探りながら、沼津市の観光客を増加させる魅力的なプロモーションのコンテンツを作り出し、魅力的な情報発信を行い、その成果を検証する。

3 研究の内容

- ①**宿泊ビジネス研究**：学生目線から沼津市の宿泊施設のPRをし、宿泊客獲得に貢献した。沼津市役所や市内の8宿泊施設と3回の会議と意見交換会を実施した。8施設への現地調査を経て、今年度は3施設で宿泊を伴う動画撮影を実施し、宿泊需要創出に向け複数バージョンのPR動画作成を行った。
- ②**旅行ビジネス研究**：沼津ならではの旅行商品を作成し、地域活性化に取り組んだ。沼津市役所、商工会、原地区NPO団体、沼津仲見世商店街組合と連携し、原地区の旅行商品造成の準備と駅前商店街での誘客イベント実施に向けて活動を行い、駅前商店街への集客力向上など、観光客の誘導を試みた。
- ③**地域観光研究**：日大生おすすめの沼津グルメマップを作成し、地域活性化を目指した。沼津市役所や市内の飲食店と連携し、現地フィールドワーク複数回行い、グルメマップを作成するとともに沼津市観光ポータルサイトに掲載する特集記事の作成を通して、紙媒体とWEB媒体の両面から駅周辺の飲食店のPRを行い、港に集中する観光客を駅周辺へと誘導することを試みた。

4 研究の成果

<宿泊ビジネス研究>

(1) 当初の計画

沼津市の宿泊率の低さに着目し、学生目線から沼津市の宿泊魅力を探り、「沼津市に泊まって観光する」イメージを創出することを目標とした。コロナ過によるワーケーションへの注目から、当初はホテル利用機会の多いビジネスマンを対象と考えたが、学生目線からは若者へのプロモーションが有効と考え、ターゲットを若者、特に女子旅やカップル旅行に変更した。

(2) 実際の内容 (B) 一部修正

- ①学生から市内ホテルに協力を呼びかけ、参加の意向を示した4施設と、学生が選んだ4施設の合計8施設を対象に、2021年6月から7月にかけて、現地での宿泊施設の視察調査を実施した。
- ②視察後に各施設に対し、学生が考える魅力発信案のプレゼンテーションを行った。その結果、6つの施設から撮影協力が得られた。そこで、今年度は3施設で行うこととし、3施設に実際に宿泊しながら動画撮影を実施した。（新型コロナによる撮影延期により2022年1月に実施）
- ③撮影動画の編集を行い、各施設の意見も反映して、複数バージョンのプロモーション動画を完成させた。

（3）実績・成果と課題

「沼津市に宿泊して観光する」イメージ創出のために、宿泊施設の紹介動画に留まらず、宿泊施設の周辺のおすすめ観光スポット紹介も動画に取り入れた。動画構成はモデルコース紹介のような形で、実際に沼津市で観光をして宿泊施設に泊まるというコースが想像しやすくなるものを目指した。宿泊事業者と協力し3つの動画を完成できた。今後は、完成動画を沼津市観光ポータルサイトに掲載し、情報発信と評価や改善点を探る。



図1：プロモーション動画サムネイル



図2：撮影調査の様子

（4）今後の改善点や対策

今年度撮影できなかった3施設の動画作成を行い、沼津市の宿泊施設プロモーション活動を継続させる。プロモーション動画への評価を検証し、沼津市の宿泊への意識調査等を行うなど次の取り組みに発展させる。

〈旅行ビジネス研究〉

（1）当初の計画

沼津の新たな観光スポットとして、「原宿プロジェクト」に取り組み、地域関係者と意見交換や資源発掘を行い、旅行商品開発を行い、衰退する駅前の活性化策を検討することとした。

（2）実際の内容 (B) 一部修正

①原地区の商品開発は、地域との関係づくりや資源発掘は出来たが、商品化・販売には、ソフト・ハードともに解決すべき課題が多く、単年度での実施は困難となった。取り組み化ゼミとして継続していく。

②そこで駅周辺の活性化案を、原地区から沼津駅周辺に変更し、沼津市仲見世商店街組合に協力を得て、既存の観光資源を利用した「沼ッティング」という街歩きイベントを企画した。沼津市仲見世商店街はアクセスも良く、昔ながらの雰囲気がある観光スポットであるが、近年衰退化し、地元の若者も足を運ばない。そこで、若い世代の需要を満たすイベントを企画した。

③「沼ッティング」は、ロゲイニング×マッチング×SNSによる若者の参加型イベントとした。

④「ロゲイニング」「出会い・マッチング」「沼津クイズ」「ベストショット賞」企画及び広報チラシ・パンフレット等準備は出来たが、コロナによりイベントは2月実施予定に変更となった。

（3）実績・成果と課題

①原地区の旅行商品づくりの基礎となる人間関係構築や資源発掘が行えた。次年度以降も継続検討する。

②駅前商店街との関係づくり、商店街イベント企画とパンフレット、宣伝用チラシも完成、使用する SNS 作成等を終え、2月実施イベントの宣伝活動（駅前でのビラ配り）を行っている。

③ただし、人が集まるイベントのため、コロナで実施が延期されるなど判断が難しい。

(4) 今後の改善点や対策

①原地区における旅行商品づくりの可能性を検討する。

②商店街イベントを実施し、効果を行い、継続的イベントとできるのか検討する。

③コロナにより再延期の可能性はあるが、年度内または新年度に実施したい。



図3：イベントパンフレットの作成



図4：宣伝用チラシの作成

〈地域観光研究〉

(1) 当初の計画

沼津市の観光は日帰りで経済効果が不十分であるという。また港エリアに関心は高いが、他の地域の注目が不十分である。そこで、沼津駅～沼津港にかけて「歴史」「食」を目的とした観光マップの作成に取り組む予定であった。

(2) 実際の内容 (B) 一部修正

①複数コンテンツによる観光マップ作成に難航し、マップ作成がしやすく、新型コロナウイルスによる飲食店応援という観点から、まずは「食」マップを作成することにした。

②沼津観光協会から沼津駅周辺エリアの歴史散策コースを案内して頂き、駅前の様子や街並みの調査を実施した。

③飲食店を対象にマップ作成をするにあたり、2つのグループで複数回取材をした。

④取材した店舗情報を集約し、実際の飲食店マップのデザインをし、「沼津グルメマップ」を作成し、観光案内所や集客交流施設プラサヴェルデ、各飲食店など市内の9ヶ所に設置した。

(3) 実績・成果と課題

今回の取り組みにより、紙媒体とWEBサイトの両面から沼津市飲食店の特集を行うことができた。紙媒体では表面にイラスト



図5：グルメマップ制作（表面）



図6：グルメマップ制作（裏面）

トで飲食店マップを、裏面には詳しい飲食店情報を掲載した。マップに関しては表面記載の飲食店マップに加え、両面の見出しを手書きで作成を行った。

今後は、マップの利用に向けた広報活動とマップ利用者による評価を検証する必要がある。

(4) 今後の改善点や対策

飲食店マップの利用者への特典づくりやゼミ公式サイト、市のポータルサイト以外の広報活動を検討する。活動方針でもある、沼津市仲世店商店街の活性化活動と連携して、飲食店マップを活用できるか模索する。

以上<宿泊ビジネス><旅行ビジネス><地域観光>の3つの研究活動の成果を「沼津市観光ポータルサイト」に集約し、今後若者目線で継続的に沼津の観光魅力を発信する仕組みづくりにゼミ生が取り組んでいく予定である。

5 課題提出者・地域への提言

本研究では、3つの研究活動を通して、沼津市の新たな観光客誘致を探ってきた。それぞれで作成した各プロモーションツールにより、効果的に観光客に情報を伝えることは出来るが、やはり重要なことは、新たな魅力ある観光資源の発掘や創造であろう。以上から、ゼミとして沼津観光に向けて以下の3点を提案したい。

①宿泊利用を増やすためには、夜の観光スポットや朝楽しめるコンテンツの創出と魅力発信が必要である。例えば期間限定のイルミネーションなどは、沼津市で宿泊するきっかけになる。また各ホテルの朝食や朝食を楽しめる飲食店情報を発信することも宿泊客の誘致に有効である。

②地域の旅行商品造成においては、NPO 団体や商店街組合と活動する中で、年配者が熱心な活動をしていることが多く、若者のニーズに合った新しいアイデアや活動が生まれにくい印象があった。観光活性化には、若者の意見を集め、若者が活動できる環境が必要である。年代問わず沼津を盛り上げようという人が集い、会議をする機会やともに活動する場を創り出す必要がある。

③紙のマップ作りについては、歴史的な観光資源が沼津駅周辺だけでも多くあり、QR コード等をかざすと当時の姿が可視化されるような新たなツールを活用した魅力的なコンテンツ作成が有効である考える。また時代にあった情報ツールの活用も考えていく必要がある。

以上の3つの研究活動を通して、素晴らしい観光資源とそれに取り組む人々の存在に気づいた。一方で、関係者の対話や協力がまだ不十分だと感じた。私たちのような若者が地域で活動することで、各関係者がフランクに議論し、新しいチャレンジをはじめること、そして継続することが何より必要ではないかと考えている。

6 課題提出者・地域からの評価

学生が考える沼津観光活性化について 沼津市観光戦略課：佐藤 雅

コロナ禍ではあるが、インターネット上で誰でも簡単に手に入る情報だけでなく、現地取材を行っていることで、観光活性化に係る課題が発見されたことや宿泊・観光を推進するためには、朝食の重要性が認識されるなど、より精度の高い研究成果となっている。

特に、本市の課題である「滞在時間の延長」「沼津港～沼津駅エリアの活性化」に着目し、女子旅・カップル旅行をターゲットにしたPR 動画や飲食店情報が写真付で紹介されているマップを制作するなど、効果が見込める取組がなされた。

今後、この活動を通じて制作されたマップなどを、市観光サイトなどを通じて周知していくが、学生自身もインフルエンサーとして、これら情報を発信することが可能であるため、日ごろ使用する SNS (Twitter や Instagram など) の活用など積極的に検討してほしい。